
プロキオン

ヒルトウス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
プロキオン

【Nコード】
N6537N

【作者名】
ヒルトウス

【あらすじ】
スター・イート。
それは星を食らう職業。
主人公プロキオンが、星を食って食って食いまくる。
そんな物語……。でも！

大事なことを見つけられる物語。

スター・イート（前書き）

スター・イートの概要を説明します。

プロキオンは、ナンバーワンスター・イートになれるのか！？
という話です。

星の名前とか、書いてあるのは全部フィクションです。

実際のものとは一切関係ありません。

それでは・・・

1 2 3・・・スター・イート！

スター・イート

俺の名前は、プロキオン。若手新米スター・イートだ。
スター・イートとは、邪悪な天体を食い、そのエネルギーを地球のエネルギーにするという、職業だ。

じゃあ、邪悪な天体って言うのは何なのか。

つまりそれは 邪悪じゃない。普通の星だ。でも、超新星爆発をする直前のものとか、軌道の重なる小惑星とか。つまり、不要な星だ。

そんな言い草はひどい。でも、その星を食べるのが、スター・イートだ。

それは、実際に食べて消すんじゃなく、水、溶岩など、その星を形成するものを食らう。

でも全部食べない。

少しもらうだけ そう世間には公表している。でも、ホント言うこと、全部食べてる。

さあ、今日はとあるミッションに、参加してもらおう。

今日のミッションは、銀河系の少し向こうの銀河にある惑星、ドラゴン 星を食らうこと。

でも、この星には、ものすごい秘密があった。

スター・イート（後書き）

ドラゴン 星。

どんな星なんでしょうか？

とにかく、ドラゴン 星へ行きましょう。

《目標、ドラゴン 星。飛行時間、約2時間。テレポート約1
7回。》

幸運を祈る。 1 2 3・・・スター・イート!》

ドラゴン 星（前書き）

第二話です。

どうぞ読んでください。

ドラゴン 星

俺は、ドラゴン 星の周りまで、やっと来た。

どうやって星のエネルギーを吸収するのか、かいつまんで説明しよう。

まず、もう普通に、障害物を破壊する。

そのあと、星に近づき、宇宙船のバキューム機でエネルギーを吸収する。

地球に帰還し、エネルギー吸収機に星から取ったエネルギーをぶち込む。

すると、そこから地球全体にエネルギーが供給される。

地球温暖化を少しでも阻止しようとした結果がこれ。周りの星を犠牲にするなんて、地球が人間によって破壊されているのと、ぜんぜん変わってない。

こんなのでいいのか。

じゃあ何でおまえはやってるんだよって話だけど・・・それは別の話だ。

ドラゴン 星・・・これ、恒星なのか？ 惑星なのか？

一応、恒星の周りを公転してるとして・・・。

燃えてるんですよ・・・。

これ、惑星か恒星かがまったくわからないので、その辺の報告は、ほうっておくことにした。

そう・・・いちいち、上の人やら幹部やらに報告するんだ。

人間は公平であるべきだけど・・・。そんなこといつてたら話にならない。

目上の人ってのはいるもんだ。

隣に座って、沈黙している、ベテルギウス。

後ろに座って、星を見てあぜんとしているアルタイル。

この二人も、ルーキーで、今回がはじめて、ルーキーだけでの任務だ。

「やるか」俺は言った。「バキュームエネルギー起動」

「バキューム照準をセット」バキューム機の穴をのぞきながら、ベテルギウスが言った。「アルタイル、障害物のチェックをしてくれ」
「了解。レーダー起動」アルタイルがレーダーのスイッチを入れて、言った。「バキュームトリガーセット」

アルタイルがトリガー（引き金）に指をかけた。

「発射3秒前」ベテルギウスが言った。かなり緊張している。

「3、2、1・・・スター・イト！」三人で叫んだ。アルタイルがトリガーを引く。

その辺に浮かんでいるチリが、どんどん吸い込まれていく。でも、ドラゴン 星には何も起こっていない。

黒点つばいところからプロミネンスが吹き出た。

早くう、早くう！

俺は心の中でせかす。

プロミネンスが何本も吹き出る。

あれ？ 待つてください。これ、恒星だったんですね。

しばらく見ていた。すると・・・。

プロミネンスが、龍の頭に・・・。

羽、足、腕・・・。

「龍だあああつあああああああ！」アルタイルが叫んだ。

ドラゴン 星（後書き）

さあ、どうなるんでしょう・・・。
次回も読んでほしいです。

宇宙空間の龍戦争（前書き）

第三話です。

ヒマなら読んでください（よかったです）。

宇宙空間の龍戦争

向かってきたぞ……。

あせるベテルギウス。ハンドルを握り締めて、必死に逃げようとしている。

パニックのアルタイル。がくがく震えて、座席にしがみついている。

ルーキーの初任務でこんなことになるとは……。

俺はドラゴン 星から逃げるより、 星、 星、 星、 星とか
その他もろもろの同じような星のほうが心配だ。

でも、スター・イトしないといけない。

「少しだけ奪って、帰ろうよ……」アルタイルは言う。

「俺もそうしたい」俺も言った。

「仕方ない。ランクが下がるけど、まあいいか。じゃあ、あいつの炎を吸収してしまおう」ベテルギウスは言った。

「それなら出来るかも」アルタイルが言った。

「よし、それじゃあ、あいつが吹いてきた炎を吸い込んで、テレポ
ートで帰るぞ」ベテルギウスが、スケジュールを立てた。

「それでいいや。やるか」俺は言った。

細かいことはめんどくさい。アルタイルは、さっさとトリガーに
指をかけた。

ドラゴン 星が炎を吹いた。

「ウオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
オオオオオオオオ！」アルタイルが叫んで、トリガーを引く。

エネルギーのゲージが、どんどんあがる……。

ついにMAX値に到達。

「よし、テレポートするぞ！」ベテルギウスが叫んで、スイッチを押した。いつもは冷静なベテルギウスが、この任務ではすごく熱い気がする。

地球についた。

ついに任務は終わった。ドラゴン 星のほかにも、確かにいろいろあるらしい。

でも、襲い掛かってこなくてよかった。

超新星爆発しそうなのに、なぜか小さかった。もともと小さい星なんだろう。

俺たちは、惑星と聞いて行ったのに、恒星だったことを、報告した。星の形の変化のことだ。

でも、知ってたらしい。

かなり腹が立った。

俺は夢から覚めた。

まだ宇宙だ。何で寝てたんだ？

なんと、ドラゴンの群は、追いかけてきている。向こうもテレポートしたのか？俺たちに巻き込まれたのか。

どっちでもいい。

ヤバイ。

え？ ちょっと待て。群？ いっぱいいるのか……？

他の星が動いたのか！

この宇宙船は、宇宙空間をすごい速度で飛んでいる。

でも、ベテルギウスとアルタイルは倒れている。

気絶でもしたんだろう。

つてずいぶん軽く言うなあオイ！
俺は自分に言う。

炎を吹くドラゴンの群。
逃げる！

しかも全部宇宙船を狙っている！
気絶してるのに進んでいる。
つまり操縦してないんだ。
こりやまずい。

俺はハンドルを握った。

ベテルギウスとアルタイルが、起きた。

窓を見て一分後、ようやくことの重大さがわかったようだ。

二人は俺に手を貸し、ハンドルを握って動かそうとしてくれている。

少しして俺はハンドルを二人に任せて手を離し、テレポート機
の行き先を地球に合わせ、スイッチを連打した。

俺の目の前が暗くなっていく。隣で二人が倒れた。たぶん、炎が
かすったのだろう。

どんどん暗く・・・なって…。

地球についた。

ここから先は、夢の流れとほぼ同じで、報告をし、ドラゴン星達の形が変わったこととか、その星達は、惑星じゃなくて恒星だったとか、いろいろ言った。

でも、みんなはそれを知ってたらしい。
腹が立ってきた。

ドラゴン 星は、大変な星だった。

でも、まだまだありえない星が、大量にあった……。

宇宙空間の龍戦争（後書き）

ありえない星・・・。

どんな星にしようかな・・・。

次の話も、もしよければ（あとヒマなら）読んでくださいね。

（今回を読む人が少ない気がします・・・）

（上の文は、「少しはいてほしい・・・」「といてほしい」です）

説明をしましょう(前書き)

この「プロキオン」の説明です。

説明をしましょう

まずはじめに、主要な三人組ですが、名前は全部星の名前ですね。プロキオン、ベテルギウス、アルタイル。

これはコードネームです。

ほかに、星座や神の名前がコードネームになっています。

三人の友人で、アンタレスというのがいる設定になっています。

彼は、スコルピオスという少年と仲がいい・・・という風に、脇役にも名前はしっかりつけようと思っています。

シリウス・・・これは偉い人です。

ほかに、フォーマルハウトや、ベガ、デネブなど、大体予想はつきますよね。

18

じゃあ、もう作中で説明はプロキオンからされま・・・っててて・・・オイ！

プロキオン！

「長々としゃべんなよー！」

・・・はいはい、わかりましたよ。

それじゃ、ここまで！

説明をしましょう(後書き)

わかりました？

楽しんでほしいです。

HEAVEN (前書き)

任務終了後の、のどかな話。

HEAVEN

俺達は、とにかく飲んで、食べた。

「肉が美味すぎるよ！」アンタレスはすごくパニックってたから、あんまりはしゃがないと思ってたけど・・・。

「美味い。これも美味い。あ、これも美味い」ベテルギウスは、いつもの性格を取り戻している。

「ふあああ、疲れた」

俺達は今、自分の部屋で寝そべっている。

テレビを見て、ゲームをして、好きに寝て、食べて、飲んで。

まさに天国だった。

でもヒマなので、なぜスター・イトになったのかを三人で話すことになった。

まずベテルギウスが始めた。

「俺は、宇宙を飛び回ってたのと、人の役に立ちたかった。だから、一石二鳥だ」

アンタレスも始める。

「俺は、かつこいいいし、憧れで、将来の夢だったんだ」

「へえ。子供のころからか」

「ああ」

「プロキオン、おまえは？」

「・・・・・・・・」

「おい」

「・・・・・・・・」

「別に言わなくてもいいけど」

「俺は・・・親友が、事故で大怪我したんだ」
「ほう」
「あいつはスター・イトになりたかったらしい」
「ふうん」
「でも、怪我のせいで無理になったんだ」
「へえ」
「だから、俺が親友のためにやってるんだ」
「ふうん」
「でも、俺はスター・イトの仕事が嫌いなんだ」
「なんで？」
「だってさ、地球のために他の星を犠牲にするなら、人間が地球を破壊してるのと同じじゃん」
「確かにな」
「じゃあ、やめればいいじゃん」
「おまえの将来の夢はなんだったんだよ？」
「・・・」
「なあ？」
「・・・スポーツ選手だ」
「じゃあ、スポーツ選手になったらいいのに」
「でも、親友と約束したんだよ」
「ああ・・・」
「俺は約束を果たす」
「そうか」

二人は、もう寝た。

俺も眠たいので眠りについた。

HEAVEN (後書き)

ふう、次どうしよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6537n/>

プロキオン

2010年10月8日14時20分発行